

前期日程 総合問題

第1問 (200点)

【出題意図】

問題文は、大石始『盆踊りの戦後史－「ふるさと」の喪失と創造－』（筑摩選書、2020年）からの抜粋である。問題文は、多国籍の芝園団地といちょう団地の特徴ならびに各団地における共生のための取り組みを紹介しつつ、多文化共生における盆踊りや祭りの役割を問いかける。国際化による地域社会の問題が、入居者の国籍ではなく、むしろ交流のあり方にあることを提唱し、祭りの行い方に再考を促す内容である。

問題解決に向けて主体的に行動しようとする意欲、大学における学びにおいて必要とされる長文の読解力、自分の見解を論理的に説明できる文章構成力、課題に対して関心・意欲を持ち、自分の意見を根拠に基づいて筋立ててまとめることのできる能力を問う内容となっている。

問1 (20点)

【正解】

③

問2 (30点)

【解答例】

異なる出自を持つ住民の中に共通する「ふるさと」を育み、「私たちの団地」という帰属意識をもつこと。(48字)

問3 (45点 各15点)

【解答例】

- ①日本人住民・外国人住民ともに子育て世代が一定数住んでおり、子どもを通じたコミュニケーションが行われている。
- ②いちょう団地には日本生まれの二世・三世もおり、外国人住民とひとくくりにできないほど多様である。
- ③多文化街づくり工房や自治会が主導する交流会が行われていて、外国人も自治会に入っているなど、地道な活動がコミュニティーの土台となっている。

問4 (40点)

【解答例】

芝園団地の祭りでは同じ住民でありながら主催者側の日本人と楽しむ中国人という分断があるが、いちよう団地では日本人も外国人も自治会主催の団地祭りなどへの参加を通じて、顔が見える関係が形成されているため。(99字)

問5 (65点)

【採点上の着目点】

本問題は、日々の暮らしの中の分断について、受験者が自らの経験と結びつける問題意識、そしてその分断がどのような原因で発生し、どのように解決できる可能性があるのか、人間の営みに関連する課題への関心や意欲を問うている。

本文にある一連の問題について理解した上で、①具体的な分断の事例をあげ、②その分断の理由と、③その分断の解消方法について根拠に基づいて書いてあり、さらに以上の3点が有機的に結びついていることが求められる。

第2問 (200点)

問1 *以下のうちから4つが書けていること

1. (Bloomfieldによる定義) 2つの言語をまるで母語のように完全にコントロールでき、両言語で書くことも話すことも同じようにできる状態のこと
2. (Mackeyによる定義) 2つ以上の言語を交互に使用できる状態のこと
3. (Grosjeanによる定義) 日常の活動において2つ以上の言語を使用する状態のこと
4. (その他の定義) 第二言語を部分的にでも操れる能力がある状態のこと
5. (現在の作業定義) 少なくとも2つ以上の言語を常に交互に使用する状態のこと

問2

1. early simultaneous bilingualism : 3歳あるいは4歳以前に2言語が学ばれ、それらがほぼ同時に発達する状態
2. early consecutive bilingualism : 思春期になる前、第一言語がすでに確立した後に第二言語が加わる状態
3. late bilingualism : 思春期が過ぎてから第二言語が学ばれる状態

問3

- ・母語に接する機会が失われることで、母語の心的辞書にアクセスすることが難しくなり母語を喪失するパターンで、移民によくみられる。
- ・幼い子どもに生じる可能性のある、母語が完全に喪失するパターンで、例えば3歳から6歳までの間にフランスで養子となった韓国生まれの成人の場合、簡単な数字やリスニングの課題における脳の反応において、まったく韓国語を学んだことのない者と同様であった。

問4

Japanese people should try to speak two languages. I think learning English is important now. If people in Japan can use Japanese and English, there are two major benefits. One is a personal benefit and another is a benefit for Japan.

English has become a global language. It is used for business and travel all over the world. If I can use English, I will be able to travel and work anywhere in the future. I will have

more opportunities. I will also be able to communicate and make friends with more people. Secondly, the Japanese economy is connected to the global economy. English is necessary for international business now. If Japanese companies can work using English, they will be more successful. This would be positive for the whole of Japan.

These two reasons show why Japanese people should be able to use two languages.